

提言（くらし生き活き）

はじめに

ふるさとを愛し、住み、そして住み続けられる多可町を創造するため、一年間活動し学んできました。

私たちは、くらしを生き活きとするとの考え方のなかで、「食と健康を考えよう！そして歴史もね～」をサブテーマにカリキュラムを組みました。5回の講座について学んだことから提言します。

第2回の学外講座「精進料理と嵐山散策」では、天龍寺で精進料理をおいしくいただきトロッコ列車に乗って保津川を上りました。多くの方が参加されました。

第4回講座「多可町の歴史を知ろう」では、古代からの多可郡の成立とその背景を学び、この地域に住む誇りを感じました。その後、多可町探訪では、エアレーベン八千代で豆腐をおいしくいただき、その後楊柳寺を訪ねました。

第5回講座「生き活きと暮らす」では、納豆ととりめしの具を通じて地域で頑張っておられる女性の方々の元気をいただきました。

第7回講座「みんなで作ろう！手作り体験、豆腐・そばづくり」では、地域の伝統産業を考え、また食の健康を考えながら楽しく作りました。

第9回講座は、公開講座「笑って健康」～ラフターヨガ・ハッピーライフ～として、いきなり笑うことから始まり、最後まで笑い続けて、身も心も健康になりました。

1. 笑顔があり、笑いがあるまちづくりを

この町に、笑顔があり、笑いがあれば、子どもたちはもちろん子育て世代、現役世代や高齢者世代まで楽しく暮らしていける多可町になれば素晴らしいと考えます。笑いによって、ストレス発散もできるし健康にもなれる。そして、脳が活性化して自分自身も変わる。そんな笑いの絶えないくらしこそが、今後、この町が持続していくキーワードの一つと考えます。そこで、笑いの講座や、たかテレビにおいても、笑いをシリーズにした番組を作成するなどして、笑いを積極的に取り入れることを望みます。

2. 多可町をもっともっと知ることを

平成17年11月1日に、特性のある3町が合併して多可町となり、今年で間もなく10年になります。しかしながら、知っているようで知らないことが、まだまだ多くあります。多可町の歴史はもちろん、寺社仏閣、人物、近代遺産など知らないことばかりです。

また町の施設を知らないだけでなく、知っているてもその施設を利用したことがない町民が、まだまだおられると考えます。多可町ふるさと創造大学においても、今後も「多可町探訪」を実施して施設の利用や周知に努めます。

なお、町の指定管理施設においても、町民が利用しやすいようにその施設をさらにPRすると共に、各施設間の連携と交流を図り、サービスの向上を更に図っていただくようお願いいたします。

提言（出会いふれあい）

出会いふれあいでは、今年度5回の講座を持ちました。新人議員との懇談会、学生（神戸大学生）との話し合い、加美電機(株)の工場視察、伊根町の舟屋訪問、そして最後は詐欺にあわないための心構えについて学習しました。いずれも参加された講座生からの反響は大変良かったと聞き、運営委員一同喜んでいますが、しかし残念なことに参加者が少なく、特に男性の参加が少ないことが課題になりました。平成27年度は受講者の募集に力を入れていかなければなりません。

そしてまた、創造大学に限らず、様々な団体に参加することは、よりたくさんの人との出会いふれあいの機会が増え、普段なら付き合うことがなかった人とも出会い、顔見知りになり、友達にもなっていく良いチャンスです。一人ひとりが、自分の人生を充実したものにするためには、自ら学習（参加）しようとする意欲の高揚を図る必要があります。また、みんなを参加の方向に導くリーダーを育てていく必要があります。創造大学が中心になり、各種団体とのコラボ講座を開催するなど、多くの人に、多可町で行われている色々な活動を広めていき、少しでも多くの方が、自ら進んで参加していく活力あるまちづくりの一端を担いたいと思います。そして町には次の事を提言します。

1. 町の情報発信・PRの更なる充実を

広報やたかテレビだけではなく、HPやFB、新聞等様々な媒体をフルに活用していただき、町内外を問わず、広く住民に周知をお願いします。同時に他市町関係機関と連携し、相互の学習者の交流の機会を設ければ、集客並びに多可町のPRにもなるのではと考えます。若者男女問わず誰もが、いつでもどこでも、様々な活動に参加ができ、多くの出会い、ふれあいのあるまちになればと考えています。

次に、「若者と語ろう」では、学生流むらづくりプロジェクト「木の家」の神戸大学生たちと語り合いました。彼らは、加美区観音寺にログハウスを建設し、観音寺集落を中心に、町内の様々な活動に参加しています。やはり若者が参加することで、それぞれの活動は、非常に活力があるものとなっています。まちの活性化に若者は欠かせません。

八千代の小学校統合や、中町幼稚園の閉園、また少子化等で、もちろん現在検討されているとは思いますが、学校施設の遊休化が増えてくると聞いています。

そこで、次の事を提言します。

2. 廃校になる学校施設を利用し、高校や大学の教育施設を誘致したらどうか

例えば、大学の研究所やセミナーや部活動で活用したり、また、高校の自然学校に活用するなど検討してみてもどうでしょうか。

また、前述の「木の家」のログハウスのように、若者が地域と交流するための拠点として有効活用してみてもどうでしょうか。多可町内には大学が無いので、地元の進学する子ども達は、当然、全て多可町から出て行くこととなります。しかし、こういった施設利用をすることで、都会からの若者を多可町に呼び込むことが出来ると考えます。若者が、地域活動に参加することは、現在の「木の家」の活動を見ても明らかで、地域に活力を与えてくれます。都会の若者に、多可町の田舎暮らしや、地域交流に興味を持っていただくことは、多可町のPR、宣伝にも繋がり、長いスパンで考えても、非常に有益なはずで、是非とも、ご検討ください。